優秀賞

水を誇れる黒部である続けるために

黒部市立清明中学校　二年　長井　悠花

「水」という言葉を聞いて、皆さんは何を想像するだろうか。私は、黒部市に住んでいる。だから、黒部ダムや湧き水、清水の洗い場といったものが真っ先に思いつく。どれも澄んだ水がこんこんと溢れ出ているイメージだ。でもこれは当たり前のことではなかった。黒部は日本の中でも特に美しい水に富んでいる地域なのだということを小学生の頃に知った。

そのことを実感したのは、小学校卒業後の春休み、大学生の姉が住んでいる東京に遊びに行ったときのことだった。コロナの影響で県外に行くのは久しぶりで、田舎から首都に向かうのは、何とも言えないワクワク感があった。東京駅は迷子になりそうなくらい線路が何本も並んでいていかにも都会らしかった。東京は五分おきに電車が出るらしい。駅から出ると高層ビルが建ち並んでいたり、そこをビジネスマンが颯爽と行き交っていたりと、私の目にはとても華やかな光景が映っていた。便利で楽しい東京で毎日暮らしている姉のことが羨ましくなった。

でも私のそんな気持ちは、姉のアパートでしばらく過ごすうちに変わり始めていった。しかし、想像とは裏腹に不便なところもあった。水道の水がおいしくなく、飲み水にはミネラルウォーターを使っているのだ。普段から、蛇口をひねったらすぐにおいしい水が出てくることに慣れている私からするととても不便で、またどこか心の支えをなくしたかのように感じた。この体験で、豊富で美しい水のありがたさを身に染みて感じた。

四日後、私は黒部に帰ってきた。宇奈月温泉駅から出ると、そこには雄大な立山連峰が広がっていた。なんと美しいのだろう。黒部の水はまさにこの立山連峰の恩恵を受けている。立山連峰の雪解け水が黒部川扇状地へと流れついている。私の通う中学校はこの扇状地の湧き水地帯にあり、湧き水が湧いている。夏の日、部活動を終えて学校の敷地内で飲む湧き水は最高だ。この清水は、私たちの生活に潤いを与えている。水の恩恵を受けているのは、私たち人間だけではない。

私は幼い頃、よく父と一緒に川へ行った。父は魚に詳しく、魚関係の研究もしている。連れていってもらったときには、水質調査や温度測定を行い、実際に魚の観察もさせてくれた。そのときに父はこんな話をしていた。「川の魚は繊細で、川の水のきれいさによって生息する場所が違う。だから、川が汚くなると今までいた魚も、住む場所がなくなってしまうのだよ。」と。このことには温室効果ガスなどの問題にもつながっていくのだろう。また、生活排水の事情にも密接に関係していくことになる。私の住む黒部市は、下水道処理にも力を入れているそうだ。父から聞いた話では、湧き水でしかすむことのできないトミヨのような魚が、黒部市では下水処理された水のなかで生きているということだ。行政努力をしてくれているから美しい環境が保たれている。

黒部という恵まれた土地にこれまで以上に感謝し、水の現状について知ったり、私たち一人一人も節水を心掛けたりするなど、身近でできることをしっかり取り組んでいきたいと思う。そうすることで、ＳＤＧｓの取り組みや「名水のまち黒部」であり続けることにもつながるだろう。